

会 議 録

会議の名称	浦幌町特別職報酬等審議会	
事務局 (担当部署)	総務課総務係	
開催日時	平成27年2月18日(水) 午後3時00分～午後4時00分	
開催場所	役場2階中会議室	
出席者	委員：木下委員、梅田委員、大坂委員、荒木委員、岡崎委員、出口委員、山岸委員 町：水澤町長、門馬副町長、鈴木総務課長、獅子原総務課長補佐、前川主事	
欠席者		
	会議次第	会議結果
	1) 会長の互選について 2) 経過について 3) 十勝管内における特別職等の報酬額について 4) 議会議員の報酬等の改正について 5) その他	大坂委員 質疑等なし 質疑等なし 改正案を適当とする。 なし
	審 議 の 概 要	
	<p>委員：他の町から比べて随分安いと思っていたが、説明を受けて実際そのとおりで感じた。今回改選ということで、手を上げてくださる方がいるのかという不安も多くの方がお持ちだと思うので、こういった見直しも必要な時期にきているのではと思う。</p> <p>委員：管内他町村と比較するといった部分が多くあるが、他町村との比較というのは、人口規模、財政規模、貯金や借金など様々なので他の自治体と比較してどうというのは意味を持つのかなと感じる。最近の傾向としては、活動の実態に見合ったものを支給するといった流れに全国的に変わってきているようである。論理的に組み立てて町民に説明できるような形で報酬額を決定しているという例があるので、そういったことを全く検討されないで今回改定されるのであれば残念である。</p> <p>町：活動量でといった事例もあるが、問題は確定した指数があるわけではない。議員報酬の適正化というのはいつも言われるが、それは正確な数字で出せるといったものではない。比較対象となる数字があれば一番いいが、現在のところはそういうものはない。私どもがいえるのは、最近の浦幌町の議会を見ていても、全国で取り上げられた事例もあり、活動量はすごく多くなっていると思う。特に、今回定数が13名から11名に減るため、1常任委員会を5人ずつで行うことになるので、負担が増えていくことは明らかである。指数で出すというのはかなり難しく現実的ではないと捕らえている。そういった意味では、管内比較、道内比較などから算出するしかないのではと思</p>	

っている。

委員：客観的に全てを数値化するのは難しいと思う。例えば4年前、8年前と比較して議会の開催日数が増えているなど、先進事例では全て時間数に積算して、年間何時間活動量があるというスタイルで数値化しているようである。そういったデータのなものが示されるとよかったと思う。

町：客観的に見られるものがあればいいのだが、議員報酬は単なる賃金とは違うものである。日常的な目に見えない議員活動もあり、そういうものも勘案しながら算出しなければならない。単に委員会を何回開催したということだけで、算出するといったのはどうかと思う。

委員：あくまでも議員さんに支給されるのは給与ではなく報酬であるということですので、議会と町長は二元代表性であるので、町長の報酬とのバランスも必要であると思うので、そういった見方も必要であると思う。

町：その割合も出しているが、今、特別職の報酬については政策的判断から下げている。それと比較すると合わなくなる。理事者としては、政策的な判断をしていかなければならないので、同じように上げるといったことにはなかなかならない。

委員：議会だより等を見ていて、色々な議員さんが発言し活動が活発に行われているようであり、日曜議会など議員さんとしての活動は、本町の議会は活発であると思うので、金額的に十勝の中でも低いということであれば、やはり、今回の提案は妥当であると思う。

委員：報酬とは、俗に言う物差しで計れないものであると思う。管内で1番最低とかいうのは自分たちの中の判断として良いとか悪いとか言うのであって、人と比較するものでは決してないと思う。ただ、個々の町の判断として、平成元年度と同じ報酬というのは、あまりにもかけ離れていると思うので、今回の提案された数値が妥当なのではないかと思う。

委員：管内順位がどうこうというのは、あくまで目安のひとつであると思う。どこにおいても、それぞれの業界の中で近隣等を調査して行っていることだと思う。この流れから言って、かなり長い間据え置かれている。そういう意味では是正という意味もあると考えたらよろしいのではと思う。また、人件費総体を見た中で少なくなるような数字でおさまっているのであれば、よろしいのではと理解する。

委員：多分、比較するものでもないだろうし、かといって目安がなければ比較はできない。色々検討された中でこういった資料を出されたと思う。個で回答を出すべきものではないと思う。